

静岡、清水、藤枝の風の比較調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 栗林, 登 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00005948

静岡、清水、藤枝の風の比較調査

栗林 登

静岡測候所、清水消防署、藤枝乗高校の観測記録に基づいての比較調査である。各地の観測期間、時間が異なるので静岡測候所を基準として静岡と清水、静岡と藤枝に分けて同時観測の結果について検討した。

(1) 静岡と清水について。(期間 1953年3月～1954年2月、時間 6.14.22時)
各方位の頻度は次の表の通りである。

方位 地名	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	静徳
静岡	73	113	134	77	18	6	16	43	103	63	55	37	55	57	49	59	131
清水	49	37	142	74	52	32	33	18	91	34	52	39	99	16	33	32	260

(a) 最多風向は両地共に北東風である。これは興津方面から清水迄の海岸線に沿って風が吹き易い爲に清水では北東風が卓越し、更にこの風が有渡山と鳥坂方面との間の平地を吹き抜ける爲に静岡でも北東風が卓越しているのではないかと思う。次に静岡は北東風、北北東風に次いで南風が多い。この南風は大浜海岸に直角に吹き易い爲に生じ、清水の南風も又南側の海岸線の影響によって生じた結果ではないかと思う。

(b) 静岡は清水に比べて東風、東南東風、南東風の頻度が少い。清水は静岡に比べて南々西風、南西風の頻度が少ない。これは両地点より夫々頻度の少ない方向に有渡山が存在することから考えて、この山が障壁となっているためであろう。

(c) 清水では西北西風の頻度が最小であり、静岡の西北西風の頻度に比べて可成り減少している。これは鳥坂の山が障壁となっているためであろう。清水では西風の頻度が大きい。これは草薙周辺の平地の吹き抜けが強いことと、上述の西北西風が西風に偏向される傾向がある爲に生じた爲であろう。

(d) 静岡の北北東風は北東風に次いで多い。これは谷津山に沿って吹く風が山の近くにある測候所の風に影響しているのではないかと思う。

(e) 風速について。

平均風速、静徳回教から考えると静岡の方が清水より吹き通しが良いが、静岡方面より清水方面に向って吹く風は静岡の方が強く反対に清水方面より吹く風は清

水の方が強い傾向がある。この様に接近した二地点間に於いても地上摩擦によってエネルギーの消耗が起ったものであろう。風向と風速についてみれば特に両地共海上より吹き上げる南風の風速が大きくなっている。

(II) 静岡と藤枝について。(期間 1954年6月～8月、時間 8. 12. 15時)

各方位の頻度は次の表の通りである。

地名 \ 方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	静総
静岡	6	7	27	40	4	1	0	17	39	7	1	1	0	1	1	0	16
藤枝	7	6	11	4	7	7	13	4	3	4	8	0	3	4	3	4	80

最多風向は静岡では東北東風であるが藤枝では南東風である。この様に藤枝は南東風が卓越しているが静岡では前項で述べた様に南東風は有渡山の存在で吹き難く、この期間中全然記録されていない。藤枝で南東風の卓越するのは、夏期には南寄りの季節風が考えられるからこの南風が高草山の存在で南東風に偏向され、その結果と推測出来得る様である。夏期には両地共海陸風の発達が見られる。正午観測の海風は沿岸線に直角に吹く傾向があるために静岡では南風が主であるが、藤枝では焼津方面の沿岸線が北北東から南南西に走っている為、この海岸線にほぼ直角に吹く傾向がある。この結果南東風が卓越する結果となったのであろう。又宇津谷峠の存在により藤枝では北東風、東北東風が少なくなり、静岡では西風、西北西風が少なくなっている。

風速については測器の不備で明確な結果は判明しないが、静岡の方が吹き通じが良い。これは藤枝が山に接近している為であらう。

以上の様に三者間に存在する山、湖の影響が風に対して相当大きな役割を果たしている。